

# 家族に囲まれ、生涯現役

高野貞介さんは、写真などを基に人物を描く肖像画家です。その道六十年を超



える大ベテランで、本州からも注文が来るほどの腕前。これまでに描いた肖像画は約一万二千点にも上ります。そんな高野さんの座右の銘は「生涯現役」。妻のナオ子さんが「いつもは優しいけれど、頑固な面もあります」と言うように、穏やかな中にも、意志の強さが感じられます。「急ぎの注文が入れば、徹夜することもあるんですよ」と笑顔で

話す高野さん。健康のため、発寒の自宅から琴似の仕事場までの一・八キロを、毎日歩いて通っています。高野さんの仕事場は、奥さんと息子さん夫婦が切り盛りする生花店の中にあります。「家族と一緒に働くことができ幸せです」と高野さんは言います。孫の誠子さん（下写真右側）は「何でも知っていて、とても若々しくて元気なおじいちゃんです」と話してくれました。

肖像画は、家族への感謝の気持ちから注文する方が多いそうです。家族を愛し、家族から慕われる高野さん。その元気の秘密は、家族みんなが仲良く一緒に暮らすことにあるのかもしれない。



たかのていすけ  
高野貞介さん

# 感謝の心とボランティア

高橋ふみさんは、地元の西野で十年以上ボランティア活動をしています。

終戦後、ご主人やお子さんたちと樺太から北海道に引き上げてきた高橋さんは、家政婦をしたり、旅館で働いたりしながら、夕張、赤平、札幌などを渡り歩き、厳しい時代を過ごしました。「戦後の何もない時期に周りの人から助けられ、人の

情けに触れました。この感謝の気持ちを大切にして、いつか誰かにお返しをしたいと思いついていました」と言います。七十歳も半ばを過ぎたころ、その思いはボランティア活動で実現しました。

現在、高橋さ



さんは、一人暮らしのお年寄り（高橋さんの方が年上だったりもします）の、身の回りのお世話をしたり、得意の三味線で老人施設を慰

問したりしています。

高橋さんは「ボランティア活動で、いろいろな人と話するのが楽しいです。ボランティアをしているから健康でいられるし、頭もボケないと思っています。だから、ボランティアさせていただいている皆さんに感謝したいくらいです。これからも、ずっと続けていきたいですね」と話します。まさに高橋さんの元気の素はボランティアです。



たかはし  
高橋ふみさん